

I-6 曲直瀬養安院文書の研究 (一)

——家系と肖像

町泉寿郎¹⁾・小曾戸 洋・花輪壽彦²⁾

1) 二松学舎大学・北里東医研医史研

2) 北里研究所東洋医学総合研究所医史学研究部

曲直瀬養安院家に関する報告は、先に『京都の医学史』(思文閣一九八〇)・小曾戸洋「曲直瀬養安院家の人々」(漢方の臨床三四—一二二、一九八七)がある。今回、ご子孫暢夫氏のご厚意により家伝資料を調査したので、ここに養安院家歴代の略伝と肖像を紹介する。

初代 正琳(しょうりん) (一五六五—一六一二)、幼名又五郎、

字は養庵—養安(文祿元年、後陽成天皇の命により改称)。別号は玉翁(参禅した春屋宗園の命名)・雪斎。

もと一柳氏。先祖は越智姓河野氏。一溪道三に入門し(一五七六)、剃髪(八二二)。豊臣秀吉・秀次に見え(八四)、二五〇石を賜る(八五)。正親町院の診脈を行い、法眼・法印に累進(九二二)。宇喜多秀家妻の治療の功に

より、朝鮮戦役で獲た書籍を賜る(九五、一七一七その多くを焼失)。また秀吉より小刀を賜る(現存)。後陽成天皇より養安院正琳法印の称号を勅許(一六〇〇)。徳川家康より駿府・江戸の医務を拝命し(〇五)、東西を半年毎に往還(〇八)。自ら開いた大徳寺玉林院に葬られた、四七歳(一一)。月岑宗印賛(一一)の肖像が伝存する。妻は曲直瀬玄朔の女。女は沼津乘賢の妻。

二代 正円(しょうえん) (一五八八—一六一六)、字は三益。正琳の二男。徳川家康・秀忠に見え、法橋(一六〇七)、法眼(一一二)。妻は曲直瀬正純(亨徳院家)の女。

三代 玄理(げんり) (二六〇四—一六七七)、初名は乗昌、字は一有。実父は沼津乘賢。外祖父玄朔に学び、叔父正円の家を継承。秀忠に見え、家光に三〇〇俵を賜り、法眼・法印に累進。以後、葬地は麻布天真寺。

四代 正球(せいきゅう)—正瑯(しょうろう) (二六四二—一七二六)、初名は恒昌、字は一珥、別号は同斎・平庵・無方。家督後(一六六七、寄合)、修業のため八王子で施療(七〇—七三)。番医(七四)、法眼(七七)、御側医(八二)、御匙(八三)、法印(八八)に累進。綱吉に重用され、

度々の加増により禄一九〇〇石に至る(一七〇四)。自賛(二二)の肖像が伝存する。致仕(二四)。

五代 正珪 (二六八六〜一七四八)、幼名は亀次郎、字は君瑞、別号は雲夢・雪翁・神門叟・懷仙楼・

松月館・雨花庵。綱吉に見え(一六九五)、家督(一七二四、寄倉)。法眼(三〇)に進む。荻生徂徠門下の文人として著名。四代桂川甫周による肖像が伝存。

六代 正山 (一七二九〜一八〇二)、幼名は亀太郎・又五郎、字は叔岳、別号は逃禪(九〇)。正珪の二男。吉宗に見え(一七三九)、法眼(六一)、法印(八一)、奥医師(八六)として家治の医務を担当。妻は五代交泰院法印井上方正(杉浦氏)の女。

七代 正雄 (一七四八〜一八二七)、幼名は富次郎、字は鳴卿、別号は龐沢。正山の二男。家治に見え(一七六六)、奥詔医師(九三)、法眼(九六)、法印(一八〇五)、奥医師(一五)に進んだ。妻は六代井上方親の女。女は七代河野通明の妻。肖像伝存。

八代 正隆 (一七七二〜一八四八)、幼名は幸次郎・恒幸、字は子棟、別号は箒庵・佩弦斎・磔翁。学

術に優れ、医学館世話役手伝(一七九六)、御目見(九七)、製薬所掛・奥詔医師(一八一三)、医学館世話役(二五)、家督(二七)、法眼(二八)、法印(三四)と進み、致仕(四三)。肖像二種伝存。

九代 正貞 (一八〇九〜五八)、幼名は富三郎、字は子幹、別号は篁庵・樞庵・楓齋。御目見(一八九)、奥詔医師・製薬所掛(三八)、家督(四三)、医学館講師(四六)、法眼(五〇)、医学館世話役(五七)。岩崎灌園に学び、本草学に精通。肖像二種伝存。

十代 正健 (一八三二〜六五)、幼名は富次郎、字は子剛、別号は静齋。御目見(一八五二)、家督・製薬所掛・奥詔医師(五八)。

十一代 養庵正好 (一八五四〜七二、正健長男)。十二代 愛恒徳(正貞四男)。十三代中(一八八七〜一九〇四)、正貞三男森川雅四郎の外孫、加藤氏)。十四代 通(一九〇二〜七〇、正貞三男森川雅四郎の外孫、浅沼氏)。十五代 暢夫(一九三二〜、愛知県知多郡東浦町在住)。

※本稿は文科省科研費特定領域A2「江戸のモノづくり」研究の一環である。